

2024年度(令和6年度)学校評価自己評価表

福山市立東中学校区	校番 10	福山市立旭小学校
最終更新日	2024年(令和6年)4月11日	

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容 「主体的な学び」とはどんな学びなのか、「楽しく学ぶ」とはどういう子どもの姿なのかについて4校での合同研修の中で論議を深め、目指す学びの姿の共有化を図ってほしい。	児童生徒の現状 話し合う活動を通して考えを深めたり広げたりしている意識は高まっている。自分の考えを工夫して発表する点については、改善はされているが課題がある。	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”) めざす子ども像 (義務教育修了時の姿) 中学校区として統一した取組等	課題発見・解決力、表現力、自他の尊重 自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる子 全教職員が2つの部会に所属し、授業研究と実践交流を行う。 ①授業改善・ESD部会 ②特別支援・長欠ゼロ部会
---	--	---	--

III 自校

ミッション 自己の成長を認識し、他者貢献できる児童の育成	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”) めざす子ども像	課題発見・解決力 課 表現する力 表 自他の尊重 尊
学校教育目標 自ら考え 共に輝く	低学年 中学年 高学年	<p>○課題を見つけ、興味・関心をもって追究している。</p> <p>○友だちと話し合うことで、考えを深め、伝えようとしている。</p> <p>○友だちとともに活動する中でそれぞれの良さを体感し、仲よく助け合おうとしている。</p> <p>○自ら課題を見だし、見いだした問題を興味・関心をもって追究している。</p> <p>○ペア学習・グループ学習・全体交流で相互に話し合う中で、学びを深め、表現している。</p> <p>○友だちのよさと自分のよさを知り、学級での自己の役割を自覚して仲良く助け合っている。</p> <p>○自ら課題を見つけ、生活経験や学習経験を基に、見通しを持って追究する学び方を身につけている。</p> <p>○ペア学習・グループ学習・全体交流で相互に話し合う中で、論理的表現力を高めている。</p> <p>○友だちのことを思いやりながら自分の役割や責任を果たし、自己の向上を図るとともに人のために役立とうとしている。</p>
現状 ＜児童＞ ・次の学習に向けて予習や復習をしたり、学習したことをより発展させたりする自主学習に取り組む児童が増えてはいるが、個別の支援が必要な児童もいる。 ・児童会主体の活動を通して児童の自己肯定感が高まってきているが、主体的に活動する児童が増えているとは言えない。また長欠児童が18名と前年度より数名増えている。 ＜教職員＞ ・招聘した外部講師による師範授業や他校との共同研修により、目指す授業のトップイメージを共有し授業改善を進めてきた。しかし、深い学びにつなげるための発問や全体交流の場でのファシリテートする力に課題がある。 ・登校しにくい児童にとって「学校は楽しい場」と思える活躍の場が十分設定できていない。	研究 テーマ 内容等	<p>「はてな?」「なるほど!」学びを楽しむ授業の創造 ～全員参加の協動的探究活動のある授業の追究～</p> <p>①「フレームリーディング」の手法を取り入れた授業への改善 ②基礎学力の定着 ③言語技術指導</p>
	めざす授業の姿	自らの解釈をより高めていくために、必要に応じて仲間と情報交換(仲間とフレームを共有)し、協動的な学びを創ろうとする姿。

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立旭小学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)			
							□指標に係る 取組状況	□達成 評価	□改善 評価	□改善 評価	□達成 評価	□改善 評価	
3	子ども主体の 授業を通して、 学びを楽しむ 児童の育成	★	継 続	全員参加の協働的 探究活動のある授 業を創ることで、児 童が学びを楽しみ 自らの手で学びを 進めたり深めたり していくことがで きる力を育てる。	○フレームリーデ ィングの手法を取 り入れた国語科授 業の改善を行う。 ・外部講師による 示範授業 ・他校との共同研 修	・年間1回以上の 全体授業公開と全 体協議の全員実 施。 ・授業改善によっ て「(子ども主体 の) 学びを楽しむ 授業ができた」の 肯定的評価児童・ 教職員共に90% 以上。							
				○基礎学力の定着 と言語技術の習得 を図る。 ・週3回朝学習で の個の課題把握 ・月1回教科外時 間での前学年の復 習と自由進度学習 ・帯タイムや教科 外時間での言語技 術指導	・国語科・算数科の 学期末テスト・自 作テスト(校内)で の「知識技能」正答 率80%以上の児 童75%、「思考」 正答率80%以上 の児童70% ・達成目標に到達 した児童80%以 上。「習得した言語 技術の効果を授業 や生活の中で感じ るか」という教職 員アンケートでの 肯定的評価80% 以上。								
1	児童に寄り添 う学校づくり の推進 社会に貢献す る児童の育成	★	新 規	学校や社会などと つながりを持ち、多 様な学びの場を作 る学校づくりを行 う。	・日々の心の状態 を確認し、個別の 連携記録簿を有効 活用する。	・長欠児童15名 以下(前年度18 名)。							
				学校行事や児童会 活動などに積極的 に参加することで、 人のために行動で きる児童を育成す る。	・児童がプロジェ クト活動を企画 し、互いに協力し、 自分の力を発揮で きる場を設定す る。	・学校や地域のた めに役に立てたと 感じる児童80% 以上。							

1	健康的な生活を考えて行動する児童の育成	新規	基本的な生活習慣、運動を意識し、実践できる児童を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> 体を動かす時間を確保できるよう、外遊びデー、ロングタイム休憩を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 体を動かすことが楽しいと感じている児童 75%以上。 													
				<ul style="list-style-type: none"> パワーアップカードで基本的な生活習慣、運動の意識づけを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 睡眠、運動を意識して規則正しい生活を実践できた児童 80%以上。 													
4	教職員の元気・笑顔		自分の挑戦を明確にし、働き甲斐をもって業務を遂行できる職場づくりを行う。	<ul style="list-style-type: none"> スケジュールを可視化し情報を共有することで、時間を生み出す。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業づくりや校務分掌などで失敗を恐れずに挑戦することができている教員を 80%以上。 													

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。